

長崎県は、全国で最も多くの「しま」を有する県です。それぞれの「しま」には、その土地にしかない、美しい自然、豊かな歴史、そして温かい人々の営みがあります。長崎県の宝である「しま」の
ことを知り、思いを馳せることを県民の一人として大切にし、「しま」
とのつながりも含めて、私たちの長崎県があることを誇りにしたい
ものです。

シリーズ最後となる5回目は小値賀町です。五島列島の北端に位置する小値賀町は、大小17の島々からなる、人口2,100人ほどの小さな町です。遣唐使の時代から、大陸と日本をつなぐ航路上にありました。現在では、雄大で美しい独特の景観や海岸から、島の大部分が西海国立公園に指定されています。

＜小値賀町の位置＞



【豊かな自然と歴史】

＜玉石甌穴／国指定天然記念物＞

甌穴（おうけつ）とは、海岸などの岩石にいた円筒形の穴のことです。深さ3m 口径2mの穴の中に、直径50cmの玉石が入っており、世界第2位の規模を誇ります。おおしけのときに、穴の中の玉石が回転するといわれています。



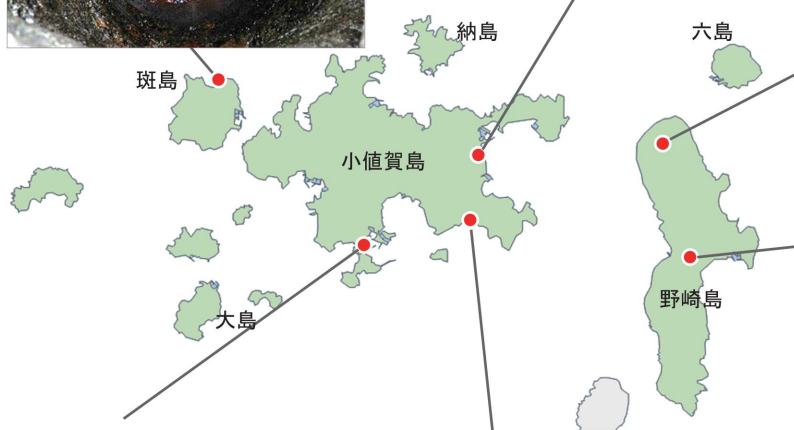
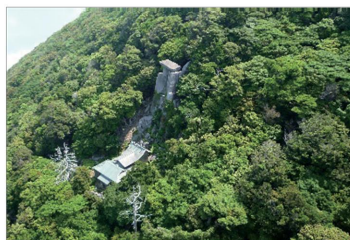
＜地ノ神嶋（ぢのこうじま）神社＞

704年に遣唐使の航行の安全を祈って、野崎島にある沖ノ神嶋神社と向かい合う形で創建されたといわれています。



＜沖ノ神嶋（おきのこうじま）神社＞

704年に遣唐使の航行の安全を祈って、小値賀島にある地ノ神嶋神社と向かい合う形で創建されたといわれています。古来より野崎島全体が神道の聖地とされ、五島列島一円の氏子から崇敬されていました。



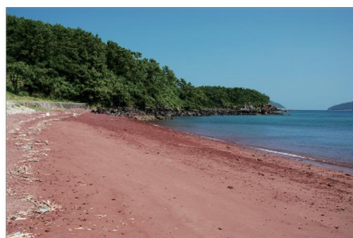
＜神ノ崎遺跡＞

弥生時代中期から古墳時代後期にかけて、約500年間連続して営まれた墓地です。弥生時代の墓には、大陸から伝来したものも含まれています。古墳時代の墳墓群としては五島列島唯一の遺跡です。



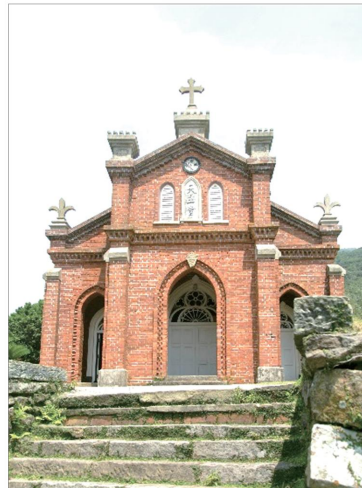
＜赤浜海岸＞

砂も砂利も赤く、鉄分を多く含んだ火山島の特徴がよく分かる海岸です。この赤色は火山礫によるもので、小値賀島が火山だったことを示すものです。泳ぐ場所というよりは、景色を楽しめる場所です。



＜旧野首教会／県指定有形文化財＞

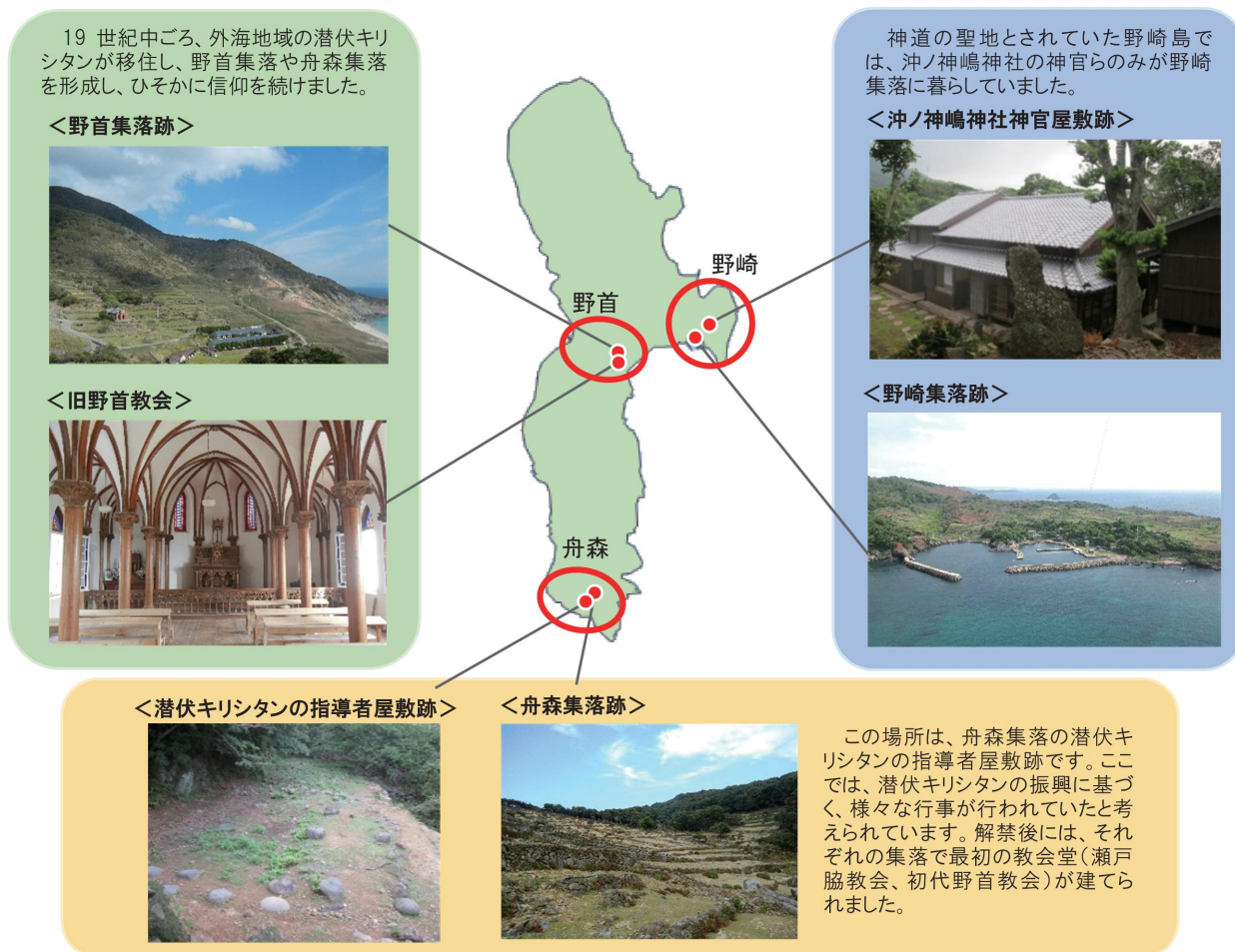
集落に住む信者たちが、貧しい中でも費用を出し合い、明治41(1908)年に完成させた本格的なレンガ造りの教会です。島民が島を離れ、廃堂となった現在でも、当時の原型をほぼ完全に保っています。



【世界文化遺産登録資産「野崎島の集落跡」】

小値賀町の野崎島は、我が国でキリスト教が禁じられていた時代においても、長きに渡って潜伏キリシタンが信仰を守り続けた島として有名です。19 世紀前半、外海地域の潜伏キリシタンは、氏子として神道の聖地である野崎島に移住すれば、キリシタンと疑われる可能性は低いと考え、野崎島の野首地区や舟森地区に移住し、荒れた地を開墾して集落をつくり、信仰を守り続けました。

そうした歴史から、2018 年に世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産「野崎島の集落跡」として、島全体が登録されました。



【小値賀の魅力を生かした取組】

大小の島々や天然の岩場が数多くある小値賀は、好漁場に恵まれており、漁業は島の中核産業です。しかし、近年では漁業者の高齢化や後継者不足、海草の減少など様々な課題があります。そこで島では、主要魚種の稚魚の放流、イカの産卵礁の設置、藻場回復のための調査研究など、積極的に対策に取り組んでいます。また、島で水揚げされるイサキを「値賀咲（ちかさき）」、タチウオを「白銀（はくぎん）」としてブランド化しており、市場で高い評価を得ています。

＜小値賀町の体験型観光施設＞



行政や住民が参画する NPO 法人が組織され、観光窓口となっています。観光案内をはじめ、自然体験、民泊、古民家事業などを総合的にプロデュースする島暮らし体験型観光「アイランドツーリズム」を推進し、町の活性化を図っています。

＜小値賀町のブランド魚＞

「値賀咲」



「白銀」

